

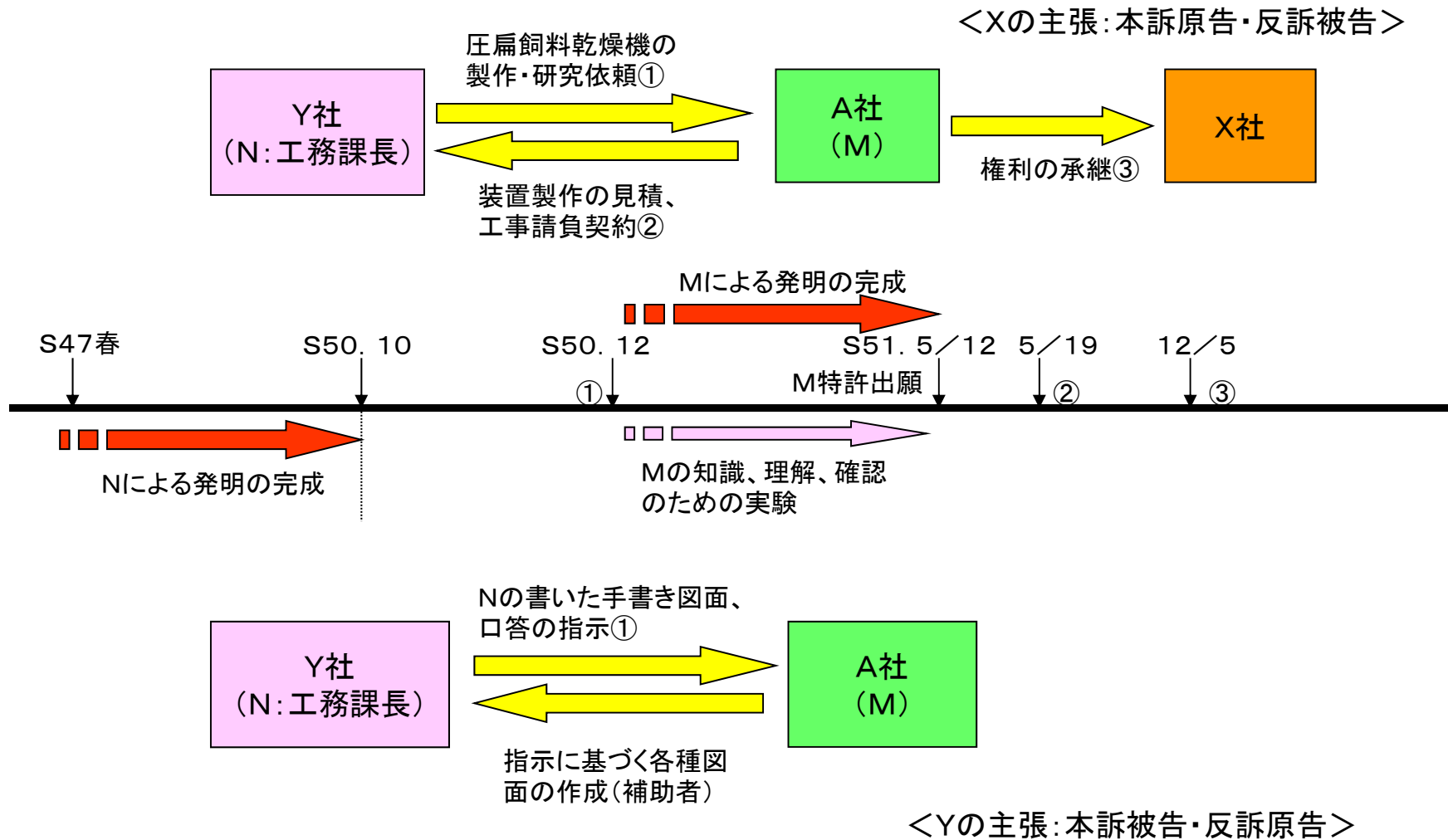
知的財産権概論 第5回

特許における「発明者」とは？

たくみ特許事務所
弁理士 佐伯 裕子

「発明者」の認定

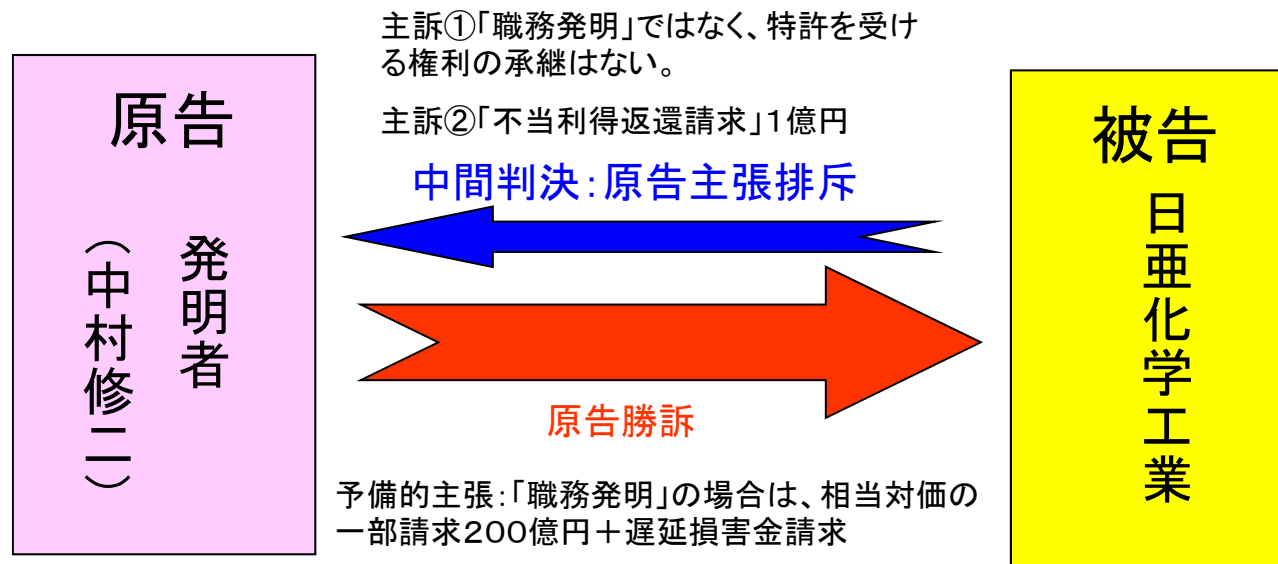
「穀物の処理方法とその装置」発明についての特許を受ける権利の帰属が争われた事件



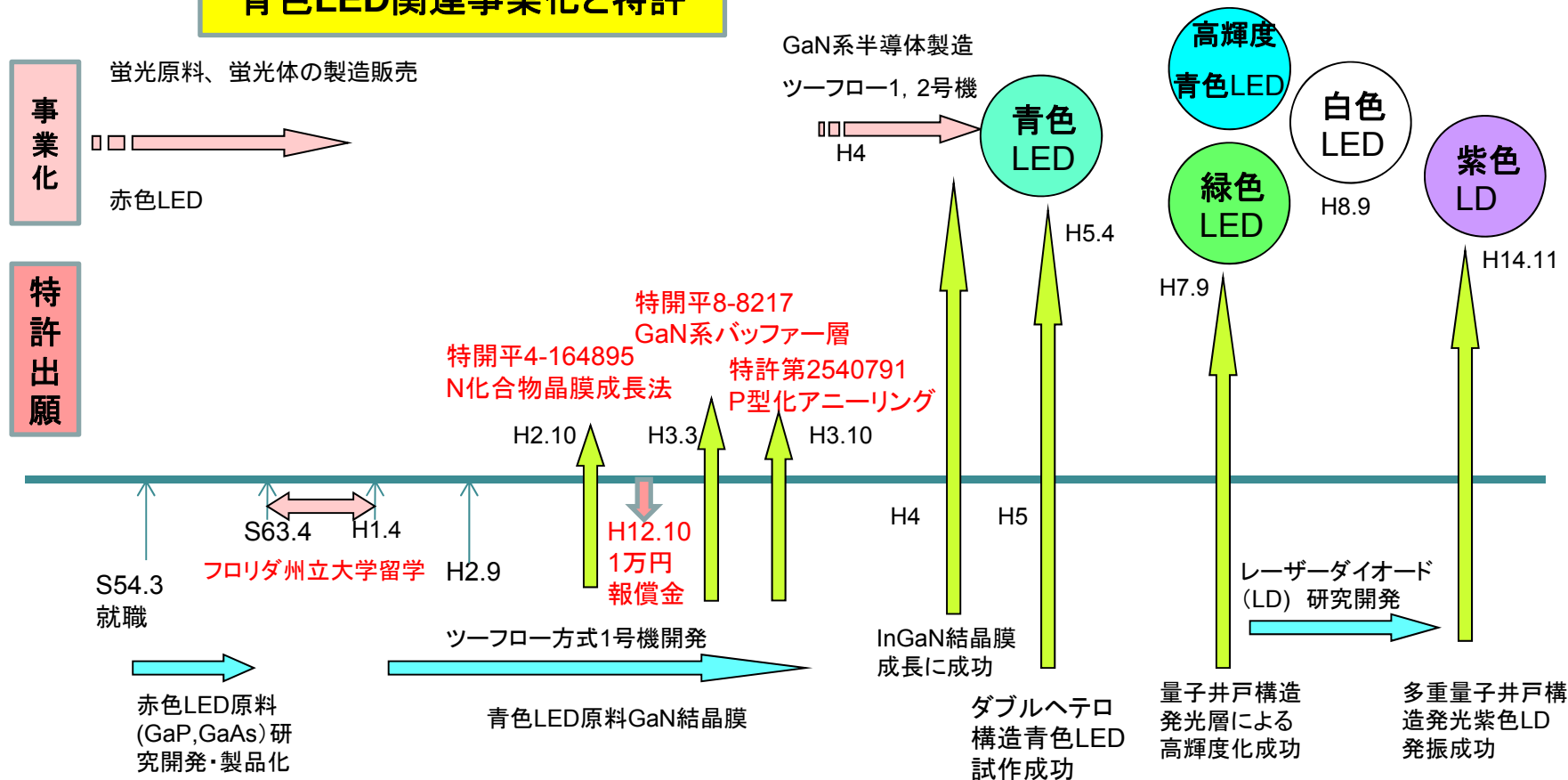
青色発光ダイオード事件

東京地裁平成13(ワ)17772号(平成16年1月30日判決)

被告は、原告に対し、200億円及びこれに対する平成13年8月23日から支払い済みまで年5部の割合による金員を支払え。



被告(日亜化学工業)の 青色LED関連事業化と特許



原告(中村氏)の功績と処遇

現在
カリフォルニア大教授

青色発光ダイオード事件の争点

		原告の主張	被告の主張	判示事項
相 当 対 価 の 額	使用者等が受けるべき利益の額	独占の利益 3357億 5300万円	実施禁止の割合 0% 実施料率 1%以下 14億9000万円の損失	上記の独占の利益も、また、特許権の存続期間満了までの間に使用者があげる超過売上高に基づく利益を指すものである 売上高 約1兆2086億円 競合他社相当割合 1/2 実施料率 20% 独占の利益 約1208億円
	使用者等が貢献した程度	特許権の貢献度 100% 原告の貢献度 100%	5%未満	小企業の貧弱な研究環境の下で、従業員発明者が個人的能力と独創的な発想により、競業会社をはじめとする世界中の研究機関に先んじて、産業界待望の世界的発明をなしとげたという、職務発明としては全く稀有な事例である。 貢献度 50%
消 滅 時 効	請求権	対価請求権と出願補償及び登録補償等は1つの請求権	対価請求権と出願補償及び登録補償等は、それぞれ別個の請求権	被告社規の規定する上記褒賞金が職務発明の対価の一部をなすものであることは明らかであり、
	起算点	登録褒賞金を受けるまでは法律上の傷害があった。 登録褒賞金を受けたときから	特許を受ける権利の承継時 (平成2年9月)	本件特許発明の対価請求権の消滅時効の起算点は、本件特許権が設定登録された平成9年4月18日以降というべきである。

人工甘味料アスパラチーム事件

東京地裁平成14(ワ)20521号

(平成16年2月24日判決)

原告

元従業員
(成瀬昌芳)



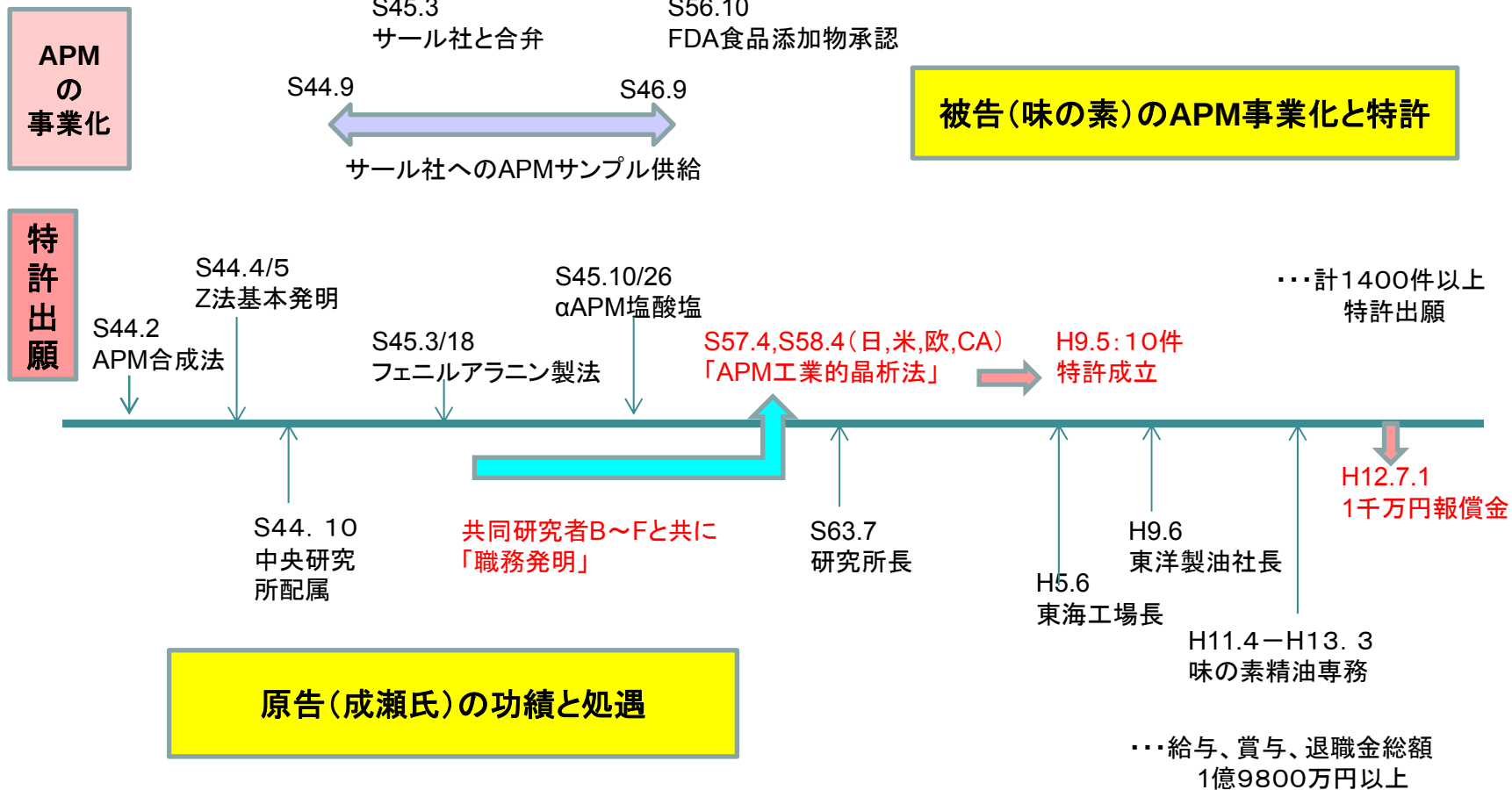
原告勝訴

被告は、原告に対し、1億8935万円及びこれに対する平成14年10月5日から支払い済みまで年5部の割合による金員を支払え。

被告

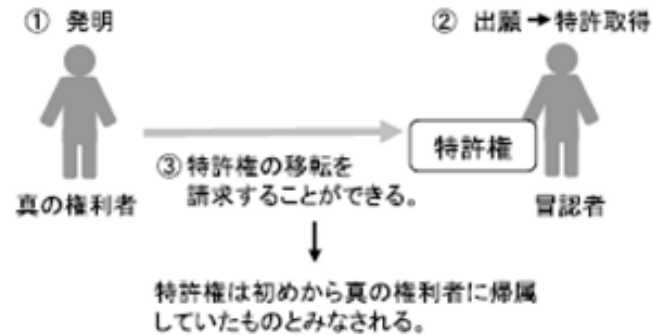
味の素

和解金: 1億5000万円

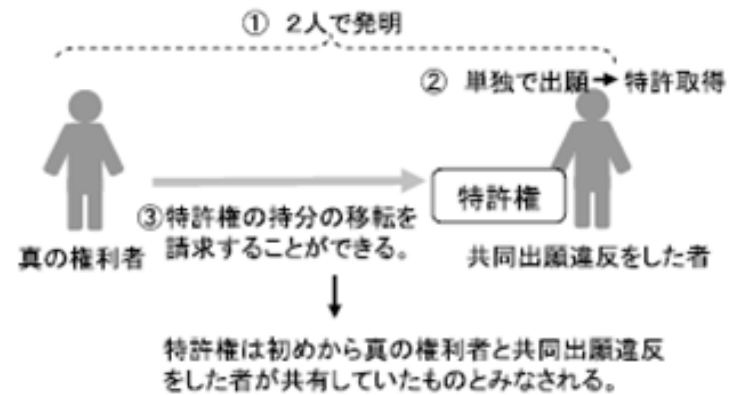


真の発明者への特許権の移転 (§ 74-1)

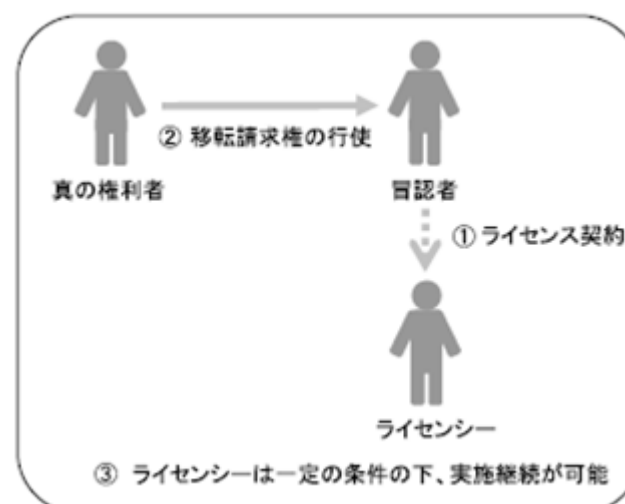
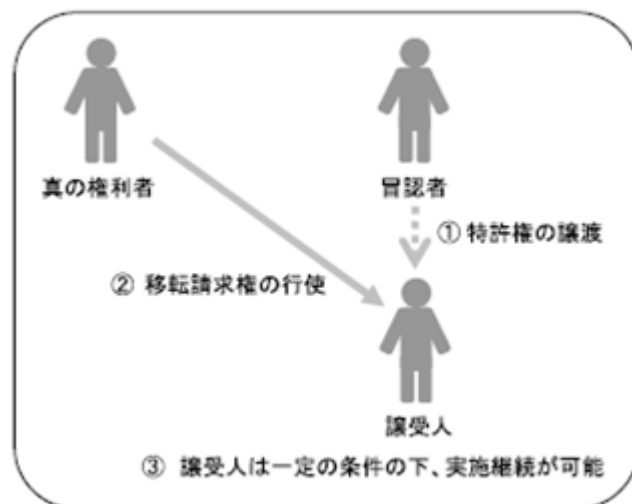
冒認出願



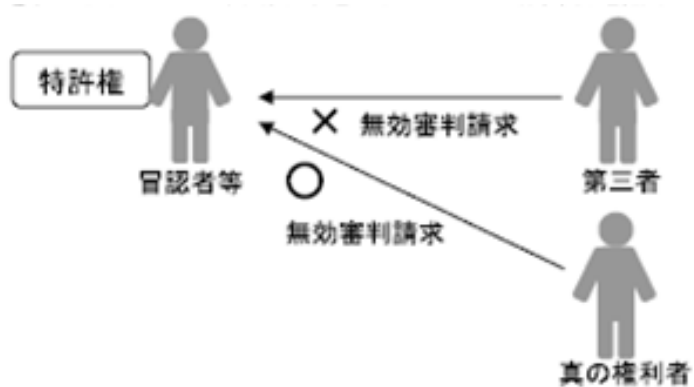
共同出願違反



冒認者から特許権の譲渡、実施権を得ていた善意の第3者への救済措置



冒認者の特許権をつぶ
すことができるのは？



冒認者に特許権
侵害といわれたら

